

編集・発行：三重県生活・文化部 新博物館整備推進室

ともに考え、活動し、成長する博物館にむけて

- ・皆さんも新県立博物館づくりに参加しませんか … P 1
- ・お雑煮プロジェクトを実施しました … P 1
- ・博物館の運営について ～県民・利用者の皆さんからご意見を伺うしくみ～ … P 2～3
- ・移動展示「くらしの道具 いま・むかし」を開催しました … P 4
- ・三重のくらしの古写真収集プロジェクトを実施しました … P 5
- ・フィールドワーク「旅するチョウ!アサギマダラの渡りのルートを探よう」を開催しました … P 5
- ・展示を制作するための調査研究と資料収集をおこなっています … P 6
- ・三重県・三重大学連携「新博物館シンポジウム」を開催しました … P 7
- ・開かれた博物館づくり ～建築工事の進捗と現場見学会～ … P 8

## 皆さんも新県立博物館づくりに参加しませんか

### みえマイミュージアムプロジェクト(MMMプロジェクト)始動!

新県立博物館は、活動や運営におけるさまざまな場面で、県民・利用者の皆さんに参加・参画いただくことで、“わたしの博物館”と親しみを持っていただけるような博物館にしていきたいと考えています。

そこで、「博物館づくり」や開館以降のさまざまな場面に、県民・利用者の皆さんが自ら携わっていただき、新県立博物館に思い入れを持っていただけるようなプロジェクトを始めます。

その名も「みえマイミュージアムプロジェクト」(略して「MMMプロジェクト」)!  
例えば、こんなことをしたいと考えています。

- 新県立博物館の愛称やキャラクターをつくったり…
- 三重の“すごいこと”や“ふしぎなこと”を探したり…
- 新県立博物館の楽しさを一緒に伝えたり…

第1弾は近日中に募集を開始する予定です。順次、シリーズとして実施していきますので、ぜひご期待ください。

## お雑煮プロジェクトを実施しました

文化庁の支援を受けて実施する子ども向け事業「新博ティーンズプロジェクト」の第3弾として、県内の子どもたちと一緒に、お雑煮の調査を行いました。お正月に自宅のお雑煮について調べてもらうように呼びかけたところ、なんと3,500枚ものお雑煮調査カードが届きました。これらの調査カードについて、子どもたちと餅の形やだし汁などの特徴を三重県の地図にシールを貼って表す「お雑煮マップづくり」を2月5日と12日の2日間行いました。そして、まとめの会として2月26日に三重県総合文化センターでお雑煮交流会を開催しました。交流会では、学校法人大川学園理事長の大川吉崇さんから、三重県のお雑煮についてお話をいただくとともに、実際に県内のお雑煮を味わっていただきました。

みなさんからお寄せいただいた一枚一枚のお雑煮調査カードは、博物館の資料として大切に保存し、分析を進めるとともに、その成果については、新県立博物館の「こども体験展示室」や「テーマ展示」で発信していきます。



お雑煮マップづくりの様子



お雑煮交流会の様子





## 博物館の運営について ～県民・利用者の皆さんからご意見を伺うしくみ～

新県立博物館は、県民・利用者の皆さんにとって利用しやすいものでなければなりません。そこで、多くの県民・利用者の皆さんからご意見をいただき、活動と運営を考え、改善していくことを目的に、博物館について広くご意見を伺うしくみづくりを進めています。

「みんなで作る博物館会議」は、新県立博物館の活動や運営に関する意見をいただくことで、県民の皆さんが新県立博物館づくりに参画する場として、平成21年度から実施しています。会議は、年に1回開催する「本会議」と、テーマや対象者を絞ってご意見をお聞きする「分科会」を設けています。

「本会議」は、「分科会」をはじめ、地域や大学、経営向上懇話会などさまざまな場を活用してアンケートや意見交換を行った成果を集約してお示しし、さらに「新県立博物館の活動と運営」の取り組みの実施結果と検討内容の進捗状況をまとめた冊子を配付して、参加する県民の皆さんと情報を共有し、総合的に議論いただく場となっています。

### みんなで作る博物館会議

平成23年度の「本会議」は、平成24年2月19日に「博物館でかしく調べ発表したい。使いやすい博物館にするために」をテーマに実施し、58名の方に参加いただきました。市民の立場で名古屋大学博物館を利用して調査研究をしている<sup>おぎと</sup>小木曾チエさんの講演のほか、三重県立博物館のサポートスタッフが調べた成果や新県立博物館に向けた取り組みのパネルを見ながら交流会を行いました。その後、博物館と地域のことを調べたい、博物館で調べた結果を発表したいなど、4つのテーマに分かれて討論を行い、最後に全体で討論しました。討論には鈴木知事も参加しました。

なお、新たな取り組みとして、本会議限定のツイッターアカウントをつくり、リアルタイムでツイッター上に本会議の内容をお知らせし、約70名からご意見をいただきました。ツイッターの運営は、三重県立博物館サポートスタッフの方に協力していただきました。

主に以下のようなご意見をいただきました。

- 利用者の身近な地域の疑問に対し、学芸員がその調べ方について一緒に考え、調べる過程を共有できるさまざまな機会をつくるとともに、県内外の研究や研究者を把握して、利用者とそれら研究者をつなぐ役割を整備してほしい
- 利用者同士が、担い手となる人材を育成していくしくみをつくってほしい



グループ討論の様子

### みんなで作る博物館会議 分科会

#### テーマ別分科会

県民が参画して行う博物館の調査、研究、展示活動の方針についてご意見をうかがう分科会を、夏の移動展示会場で7月18日に実施しました。15名が参加し、以下のようなご意見をいただきました。

- 夏休みの自由研究に関して、計画段階から何度も学芸員が支援してほしい
- 博物館の利用の仕方などの広報を充実してほしい



## ユニバーサルデザイン分科会

三重県障害者社会参加推進協議会との「ユニバーサルデザイン」に関する意見交換会を9月7日に実施しました。15名が参加し、以下のようなご意見をいただきました。

- 押しボタンの周りを突起状のようなもので囲ったものにしてほしい
- 運用面での意見交換の場の体制づくりをしてほしい

## 三重県立博物館サポートスタッフ交流会

三重県立博物館の利用者団体からご意見を伺う分科会としても位置づけ、11月23日に実施しました。34名が参加し、以下のようなご意見をいただきました。

- 展示品が触れるようにしてほしい
- 保存資料の整理や調査など博物館の活動に手伝いができるようにしてほしい



意見を付箋に書いてパネルボードに貼りだした様子  
(三重県立博物館サポートスタッフ交流会)



## こども会議

子どもたちからご意見を伺う分科会を12月18日に実施しました。71名が参加し、以下のようなご意見をいただきました。会議には、鈴木知事も参加し、子どもたちと交流しました。

- 子どもたちが利用できる化石クリーニング室や研究室を作してほしい
- さまざまな活動サークルをつくってほしい



子どもの発表の様子 (こども会議)



総合討論の様子 (こども会議)



館長のまとめの様子 (こども会議)

## 「新三重県立博物館 (仮称) 経営向上懇話会」

新県立博物館の運営と経営に関する方針や体制の構築を進めていくにあたり、総合的・大局的な観点から助言をいただく場として、「新三重県立博物館 (仮称) 経営向上懇話会」を平成23年10月に立ち上げました。

平成23年度は2回開催し、8名の委員から「広報戦略」「企業、団体、NPO等、多様な主体との連携の進め方」「多様な収入の確保策」をテーマに以下のようなご意見をいただきました。

- 広報について:

開館(平成26年)前後には、三重を売り込めるさまざまな出来事があり、これらの関係者がプロジェクトチームを組んで横断的・戦略的に進めるべき。まずは、組織体制を整え、開館間近に大々的に広報した方がよい。

- 多様な主体との連携について:

県内博物館との共通チケットの設定により入館者が増えることが見込まれば、応援してくれるのではないかと。また、協力する企業にとってのメリットを示していく必要がある。

- 多様な収入の確保策について:

会費や協賛金の集め方にもアイデアが必要。今の経済情勢の中で、企業が毎年お金を出し続けることは難しい。金額を低く設定して幅広く集めることも考慮すべき。また、リピーターを増やすにはパスポート券を発行したり、来館回数によりお土産を渡すことを考えてはどうか。



## 移動展示「くらしの道具 いま・むかし」を開催しました

平成23年度冬の移動展示を、平成24年1月21日から2月26日まで、伊勢市立小俣図書館で開催しました。おもに明治から昭和にかけて、くらしのなかで使用されてきた生活用品を、「食事に関わる道具」、「着物に関わる道具」、「くらしを支える道具」、「学校の道具」の4つのテーマごとに紹介しました。

実際に道具を使うことができる体験コーナーもあり、<sup>いしらす</sup>石臼で大豆をひいたり、昔の小学校で使われていた二人掛けの机と椅子に座ってみたり、子どもたちも興味津々でした。一方、道具を使用したことのある世代の方々からは、道具の使い方や思い出話を聞かせていただき、博物館職員

にとっても勉強になりました。

また、多くの小学校では3年生の社会科の授業で昔の道具について学習することから、小学校の先生方とともに、展示会場や授業のなかで活用できる冊子を作成しました。日々子どもたちと接している先生方からは、教えるプロの視点から貴重な助言をいただきました。会期中には、伊勢市内をはじめ、多くの小学校から見学にお越しいただき、当館の職員が解説しました。

1月22日には、「やるじゃん!じいちゃん、すごいね!ばあちゃんの日」というワークショップを開催しました。この日は、おじいさんやおばあさんに先生になっていただき、



展示会場の様子



チラシとワークブック

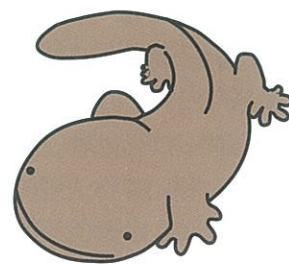


ワークショップ「やるじゃん!じいちゃん、すごいね!ばあちゃんの日」の様子

昔の道具（炭火アイロン・鯉節削り・棹秤・蓄音機・謄写版）の使い方をその思い出話とともに、参加者のみなさんに伝えていただきました。

1か月ほどの開催期間中に、のべ5,038人の方にお越しいただき、大盛況となりました。この展覧会で実施した小学校、地域の博物館

との連携は、新県立博物館に向けて今後も進めていきたいと考えています。





## 三重のくらしの古写真収集プロジェクトを実施しました

新県立博物館の開館に向けた取り組みの一つとして、県民の皆さんと一緒に三重のくらしに関する古写真を集めるプロジェクトを実施しました。このプロジェクトは平成23年度文化庁補助事業「みえミュージアム活性化事業」の一部として、10月から3月までの6か月間にわたり展開したもので、ポスターやチラシ、

ケーブルテレビ、県内5か所で開催したパネル展などで広く協力を呼びかけました。

対象は三重のくらしの移り変わりを物語る明治時代から昭和40年代にかけての古い写真（衣・食・住、仕事、遊び、まつりなどなど）です。その結果、県内各地の個人の方やまちかど博物館、写真館など、さまざまな

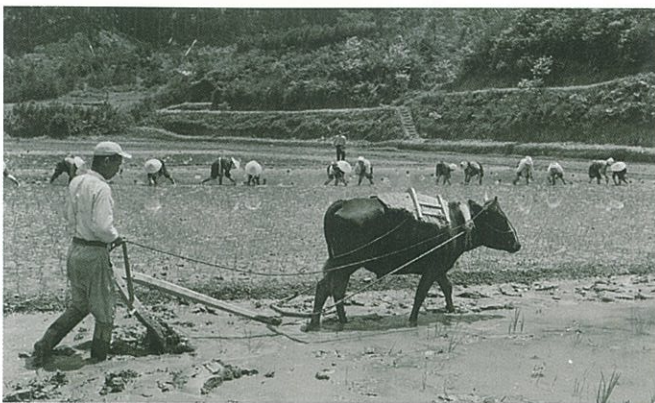
方々から、3,000点以上の写真をお寄せいただきました。1枚もののプリントから写真アルバム10冊以上に及ぶものまでさまざまですが、いずれも大切に保存されてきたことが伝わるものばかりでした。

現在、写真の整理を進めているところですが、その成果は、新県立博物館の基本展示の「くらし



古写真パネル展会場の様子  
(会場：三重県立熊野古道センター)

と自然」コーナーでの展示をはじめ、さまざまな機会に紹介していきたいと思っています。どうぞご期待ください。



紀北町での代掻きと田植えの様子（東真澄さん撮影）



昭和38年頃の津市内の町中の風景（河野通太郎さん撮影）

## フィールドワーク「旅するチョウ!アサギマダラの渡りのルートを探よう」を開催しました

アサギマダラというチョウが渡りをするルートを探るため、三重県立博物館では平成17年から毎年10月にこのチョウを捕獲し、翅に油性ペンで標識をつけて放すという調査を行っています。平成23年度は、



フィールドワークの様子

参加者25名が集まり、10月16日、鳥羽市答志島の桃取港から和具港までの約5kmの距離を歩きながら、アサギマダラを捕まえて標識しました。当日は晴天で、アサギマダラは、答志島の峠付近の道路沿に咲くアザミやヒヨドリバナの花に吸蜜していました。当日標識した個体数は42個体でした。その内の1個体には10月7日に愛知県幡豆町ですでに標識がされていました。



フィールドワークの様子

この行事で標識して放蝶したアサギマダラが再び各地で捕獲され、その渡りの生態の解明への一

助になることを期待したいと考えています。



## 展示を制作するための調査研究と資料収集をおこなっています

### 「東紀州・熊野灘の自然～黒潮の豊かな海～」のコーナーの調査

新県立博物館の基本展示室のこのコーナーでは、南から流れてくる黒潮が運び、育むたくさんの生きものが東紀州・熊野灘に生息していることや、熊野灘の沖に広がる深い海にはたくさんの生きものがあることなどを伝えたいと考えています。

そこで、黒潮による暖かい気候に育まれた森にくらす動植物、熊野灘にすむ魚類及び深い海にすむ生きものの生息状況調査を行っています。

平成23年度は、調査する暖かい気候に育まれた森の候補地を選定するとともに、新県立

博物館で展示する動植物資料の基礎調査を行いました。さらに、三重大学生物資源学部の練習船「勢水丸」や三重県水産研究所の調査船「あさま」に乗り、熊野灘の深い海や沖合の生きものを採集しました。また、鰲浦漁港や奈屋浦漁港、和具漁

港で、熊野灘で漁獲された魚介類の調査と収集を実施しました。

なお、平成24年7月24日から9月2日まで志摩市歴史民俗資料館で、このコーナーの展示を中心にした移動展示を開催しますので、ぜひお越しください。



「勢水丸」での熊野灘調査  
(深い海の岩の表面についている生物を収集している)



「あさま」での熊野灘調査（イルカ）

### おんし 旧御師丸岡邸の器物調査

新県立博物館の基本展示室では、江戸時代に伊勢参りの客を一手に屋敷に引き受け、宿泊や神宮の案内を行った、「御師」とよばれ

る人々の活動を取り上げます。最も多い時には、内宮前の宇治の町に271家、外宮前の山田の町に615家の御師がいました。新県立博物館では、外宮の御師で最大の規模を誇った三日市大夫次郎邸の模型展示を予定しています。

しかし、三日市大夫次郎邸をはじめとする

御師邸はほとんど現存していません。現在、門や主屋などを含めて現地に一定規模で残っている屋敷としては、外宮の御師丸岡宗大夫邸があるのみとなっています。久しく使われていなかった建物でしたが、現在旧御師・丸岡宗大夫邸保存再生会議によって整備が進められています。県立博

物館の職員も平成23年3月から建物整備の日にかが、協力して調査を進めています。調査では、江戸時代から伝わる大量の食器類が確認されています。今後も継続して、御師邸の復元に向けた研究と器物調査を進めていきます。



調査風景



## 三重県・三重大学連携「新博物館シンポジウム」を開催しました

平成23年11月19日、四日市市総合会館で、「三重の近代史から地域の明日を探る」をテーマにシンポジウムを開催し、地域の近代化遺産を地域づくりに活かすための展望を探りました。107名の方にご参加いただき、基調講演、問題提起、事例報告、パネルディスカッションおよび関連したパネル展示を行いました。

新しい県立博物館の活動理念の一つは多様な主体との連携です。三重大学と三重県の間では、平成21年3月に新県立博物館に関する連携協定を結んでおり、このシンポジウムはその取り組みの一つです。

基調講演には、田川市石炭・歴史博物館の安蘇龍生館長をお迎えしました。「世界記憶遺産山本作兵衛炭坑記録画について～田川市石炭・歴史博物館の取り

組み～」と題して講演をいただき、山本作兵衛資料が日本初の世界記憶遺産に登録されるにあたっての博物館の取り組みや今後の展望についてお話しいただきました。

基調講演の後、三重大学大学院工学研究科建築学専攻教授の菅原洋一さんより、今回のシンポジウムのテーマである近代化遺産に関わる問題提起をしていただきました。

事例報告では、まず、三重県史編さん専門員で三重大学附属図書館研究開発室客員教授の吉村利男さんから、四日市地域の近代史とそれに関わる地域資産について紹介いただきました。次に、三重県立博物館サポートスタッフ民俗グループのメンバーの木下辻松さんから、博物館の資料や書籍を使い、県内の軽便鉄道<sup>けいべん</sup>を調査研究し報告



山本作兵衛炭坑記録画の紹介パネルの展示



安蘇龍生氏の基調講演

書を刊行した取り組みについて紹介していただきました。最後に、建築家で四日市地域まちかど博物館推進委員会代表の久安典之さんから、地元四日市地域のまちかど博物館の活動や地域の資産の活用についての取り組みなどをご紹介いただきました。

パネルディスカッションでは、菅原洋一さんをコーディネーターに、講演者4名をパネリストに迎え、「三重の近代史から地域の明日を探る」というテーマで意見交換を行

いました。博物館や大学が地域の遺産を資産とするための価値付けをしたり、三重県立博物館が中心となって地域の人と人、まちかど博物館、地域の博物館などをつなぐ役割を果たしたりしていくことが重要であると話し合われました。



会場の様子



パネルディスカッションの様子



## 開かれた博物館づくり ～建築工事の進捗と現場見学会～

新県立博物館の建築工事は、平成 25 年春の工事完了をめざして着々と進んでいます。平成 23 年 12 月には展示エリア、平成 24 年 2 月には交流創造エリアの躯体の鉄骨が立ち上がり、建物の全体像を見ることができます。引き続き、次の目標として、夏前に鉄骨を取り囲むコンクリート躯体工事を終了するよう工事は進捗していきます。



平成 24(2012)年3月上旬の建築工事の状況

工事の進捗にあわせて、ふだん、あまり見ることのできない工事現場を見ていただくことにより、現在の工事の状況をお伝えするとともに、みなさんに免震工法等の特徴的な技術や、どのように建物が建築されていくのかを知っていただ

き、博物館の活動や展示だけでなく、博物館に総合的に興味をもってもらうきっかけとなるように、現場見学会(平成 23 年 10 月 30 日:参加 55 名)を実施しました。また、若者たちの将来の仕事の参考としていただくために、県内の建築関係

学科の高校生を対象とした現場見学会を(社)三重県建設業協会と連携して実施(計3日間:参加 113 名)するとともに、三重大学工学部建築学科の大学生についても、授業の一環としての現場見学(計2日間:参加 87 名)に協力しました。

今後も、継続して現場見学会を開催し、みなさんに、建設状況を報告するとともに、新県立博物館を身近なものとして興味をもっていただけるようにしたいと考えています。



現場見学会(一般)の様子



現場見学会(高校生)の様子

### お問い合わせ

#### 三重県生活・文化部 新博物館整備推進室

※平成 24 年 4 月から環境生活部 新博物館整備推進プロジェクトチームに名称が変更になります。

〒514-0006 三重県津市広明町 147-2 三重県立博物館内  
 TEL: 059-228-2283 (代表)  
 FAX: 059-229-8310  
 E-mail: shinhaku@pref.mie.jp

新県立博物館の情報は、  
 ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.pref.mie.lg.jp/SHINHAKU/HP/>